

学会いろいろ

長野県植物研究会

長野県植物研究会は、植物の分類学および、生態学的な調査、研究を行い、勉強会を開催して意見交換をすることを目的として1967年に発足しました。会員数は現在200名を数え、研究会誌の発行、講演会や研究発表、例会(植物観察会)を実施しています。なお、例会は今年で197回を数えます。

今年は6月12～13日に大町市で研究発表を含む大会と第195回例会が、10月2～3日に諏訪市で第196、197回例会が開かれました。6月12日の大会では特別講演として「古民家にみる植物資材の持続利用法」、一般講演として「サドノウサギの植生利用」、「シダ植物の新雑種」など、豊富な話題が発表されました。私は「スゲ属植物の種子散布」について発表しました。翌日の例会では野外で植物を観察しながら同定のポイントなどの解説を受けました。

本研究会などの地方植物研究会の活動は、地域の植物分布、植物相の解明や、情報の共有、後身育成などの役割を担っています。特に植物の分布情報などは、種の保全に不可欠なことから、それらの地道な活動がなければ長野県版レッドデータブックの作成は難しかったかもしれません。今後も本研究会の活発な活動にご期待下さい。

(横井 力 kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)



第195回例会で、植物の解説を熱心に聞く参加者(大町市)

下水道研究発表会

下水道研究発表会はいわゆる学会ではなく、社団法人日本下水道協会の主催で年に一度行われている下水道関係の仕事をしている人たちが日々の研究の成果を発表する場です。

この発表会の主な参加者は、市町村の担当者、公社・公団、大学の研究者、民間の開発担当者等と幅広く、他の学会と違って、民間の設備開発担当者やメンテナンス業務の担当者の参加が多く発表演題の半数程度を占めています。

規模は比較的大きく、今年度は7月27日～29日の三日間にわたって、特定課題セッションと通常セッションを合わせて約300題の発表が「ポートメッセなごや」において行われました。参加者は産学官合わせて約1300人でした。

当所がこの発表会に参加する目的の一つに、現在当所で行っている下水処理の省エネ運転に関する研究のための情報の収集があります。ここでは下水処理の最新技術やこれから方向性についての発表が行われるため、これを押さえておけば現在の国内の状況を把握することができるのです。今後も、この発表会を中心に下水処理の最新動向に注意を払っていきたいと考えています。

(鹿野 正明 kanken-junkan@pref.nagano.lg.jp)



第47回(2010年)の会場の様子